

Civis Magazine PERIPLUS

SNS で政治家を身近に

数年前までは、“政治”という分野に足を踏み入れることになるとは思ってもしなかった。と語ってくれたのは、現在慶應義塾大学院政策・メディア研究科で SNS と政治の関係性について研究を行っている、中村佳美さん(28)。政治に関心を持ったきっかけについて次のように語ってくれた。

「20代前半まで政治というものに全くと言っていいほど関心が無くて、投票も行ったことがなく知識についても一般的な学校で習う公民レベルでしか知らなかったです。それになんで政治が大事なのかということも考えたことはありませんでした。今でこそ大学院で政治について研究をしているのですが、もともとは SNS とメディア戦略なかでも、“地域と SNS” について研究をしたいと思っていました。というのも、私自身が故郷の高知県の PR 活動を以前からやっていたこともあり、研究を高知県の魅力発信に繋がりたいと考えていたんですね。でも研究をしていく中で地域とか故郷の未来についておぼろげに感じ始めるようになった時に、“地域を動かしているのは政治なんじゃないのか” と思うようになりました。そして、より地域の未来を創造していく為には今まで知らずともしなかった政治の現場を自分自身の目で観る経験は人生の中でとても大切なことだと考えるようになりました。」その後中村さんは国会議員の秘書として活動するようになったのだが、およそ1年後再び転機が訪れる。

「20代半ばの当時は SNS に着目して研究はしていましたが、まだ政治については研究しようとは思っていませんでした。そんな時、私が SNS について研究をしていることを知った別の議員の方から統一地方選の際に SNS の運用者として手伝って欲しいという依頼を受けたんです。戸惑いもありましたが、その依頼を受け実際に選挙というものに携わりました。その経験を通じて選挙の大切さや候補者の情報発信の重要性について痛感しました。特に新聞やテレビを見ない世代には SNS を活用した政治家や候補者の情報発信が他の世代よりも重要だと感じ、SNS と政治の研究を始めるようになりました。」



中村佳美さん(28歳)

1992年生まれ。高知県出身。
慶應義塾大学院政策・メディア研究科修士課程在籍。「SNS で政治を身近に」をモットーに、多数の政治家へのインタビューをしながら政治家のソーシャルメディア活用、SNS と政治の関係性についての研究に取り組む。また、議員の SNS 運用サポートやネット選挙参謀も行う。
高知県アンバサダーとしても活躍中。

政治家の秘書の活動を通じて感じたことについて中村さんは、
「3年ほど秘書をやってみて一番大きかったのは政治に対するイメージが大きく変わったことですね。それまでは政治に対して不信感しかなかったんですが、実際に自分の目で観て悪い人ばかりではないんだということを身に染みて実感しました。それと同時にメディアからの情報は尺の関係などで発言などを切り取らざるを得ないことがあり、切り取り方によって受け取り手に誤解を与えかねないものになるということも感じました。そしてその穴を埋める手段として、政治家が自分の言葉で直接有権者に伝えることができる SNS の情報発信の重要性はますます重要になると考えるようになりましたね。」と語る。



中村さんによれば、若者と政治を繋ぐ手段として SNS は今後も非常に大きな可能性を秘めていると言う。

「2019年の参院選挙では色んな大学の先生方がパネル調査として有権者の方に、“信頼できる情報判断の材料としての SNS 接触率”のアンケート調査をしているんですね。その結果として10代から30代までは SNS が大きな割合を占めているんです。若者世代が SNS に接触する機会は以前と比べ各段に上がっている可能性が高いです。じゃあ、接触することでどういう影響があるかと言えば、政治家の生情報つまりメディアで加工していない情報を受け取ることができるようになるんですね。それってとても大きなことだと思います。今までの若者と政治は、学校の授業の一環で一方向的に教えられたり地元で選挙があっても何となく『ああ、選挙やっているんだ。』くらいで、まして現職の政治家や候補者に直接会うことができる機会はそうそう無かったと思うんですね。でも SNS 上で政治家が直接投稿などで働きかけることで、政治に無関心だった若者にもよりフラット、つまり SNS 上に流れて来ることで意識しなくても“政治”と接触する機会が増えハードルが低くなってくると思います。それに SNS を介することで政治家の立ち位置がリアルでの

立ち位置と異なるのではないのでしょうか。ネットワークであるということは政治家も有権者も同じ立ち位置、立場の感覚になります。こうした SNS の特徴は若者にとっては、若者にとってはよりフラットに政治家を身近に感じる要素になると考えます。政治家自身が『自分はこういう人間なんです。』という人となりや SNS を通じて発信することがこれからはより求められると思います。」

一方で SNS と政治の関係でよく懸念される情報の偏りについては次のように語ってくれた。

「結論から言えば利用する側のリテラシーが重要になってくるのではないかと思いますね。現代は情報を個人が選ぶことができる時代ですし、SNS やネットでも自動的に自分が好みそうな内容のものが表示されるようになっているので、そこはどうしてもできないと思います。じゃあそうならないようにする為に SNS の発信に企業や政府が介入するべきかと言えば、言論や表現の自由も絡んでくるので難しいと言えるのではないのでしょうか。となるとやはり利用者一人一人が注意して視野が狭くならないように気を付けていくしかないのではないかと思います。」

また、現在の新型コロナ感染拡大という状況が政治と SNS の関係に及ぼす影響については、

「この新型コロナ禍という状況ではますます政治における SNS の重要性は、候補者、有権者の双方にとって増していると思います。SNS は投稿する内容のどこかに必ず人間味が出てくるので、“SNS は政治家が丸裸にされる” ってよく言われるんですね。でもそれによって政治家自身が鍛えられる部分もあるし、有権者にとっても有益な判断材料になるので政治家を観る目がより養われることに繋がると感じます。なので、これからは益々政治家は単に情報発信だけではなくて、より一歩踏み込んだ自分の言葉で喋るコミュニケーションツールとして活用する必要があると思いますね。」と語る。

最後に中村さんにとって“政治とは”を伺った。

「政治とは。そうですね、一言で言うと“生きるうえでの希望”なのかなと思います。政治っていうのはこの日本という国がより豊かに発展するために、そして国民がより幸せになるための問題を解決できる仕組みだと捉えています。政治に解決できない問題はほとんどないのではと感じるほどに、大きな権力を持っています。たとえどんなにこの国が瀬戸際に立たされても、国民のために現場で奮闘している政治家の姿勢を見て、あと少し、あと少し頑張ろうと私は思えます。」

SNS を介することで政治家と有権者がリアルとは異なり同じ立ち位置になる。この中村さんの言葉が印象的だった。今は誰もが情報発信ができ、気軽に繋がろうと思えば誰とでも繋がることのできる時代だ。そして繋がった者同士の関係性がフラットな形で現実よりも緩い繋がりになるからこそ、投稿した内容の行間に垣間見える人間性が重要になってくるのではないかと感じた。特に現在のような社会が不安に包まれている時にこそ政治家は一人一人に寄り添うような発信が SNS を活用するうえで求められるのではないだろうか？